

生活史研究部門

杉山幸丸・田中二郎
小山直樹・大澤秀行

研究概要

1) ニホンザルの個体群生態学

杉山幸丸・小山直樹・大澤秀行

本部門創設以来中心課題として、高崎山、嵐山、壺仙山の各個体群において取り組んできたこの研究は一つの峠を越えた。すなわち、高崎山の餌付け大型個体群については標識追跡によって多くの人口学的パラメーターが得られ、幼児死亡率の性差については一部発表したほか、細部については資料の整理中である。壺仙山個体群については、1977年11月に集団捕獲されたが、残された個体群が群れ分裂を繰り返すに至った。この時点までの純自然状態における人口学的変動の実態と分析そして残された問題の整理を現在行なっている。嵐山の個体群については、24年間にわたって追跡調査されてきているが、出産、加入、死亡、離脱、捕獲等、個体群変動に関わる資料を収集し終り、現在いくつかの観点からの資料の分析を行なっている。

2) ニホンザルの行動学的研究

小山直樹

これまでは、ニホンザルについて発達の観点を加味した社会関係の把握に重点を置いた研究を行ってきたが、今後は個々の行動の詳細な記述と機能分析に重点を置いた研究を行っていく予定である。

3) 狩猟採集民、遊牧民の生態人類学的研究

田中二郎

ホミニゼーションの過程における生活様式と社会の復原を目的として、アフリカの狩猟採集民、遊牧民の比較生態学的研究を行なっている。

昭和53年度にはケニア北部乾燥地域の遊牧民について現地調査を行ない、人の乾燥地への適応、家畜の管理方式、遊動パターンと土地利用、社会集団構造などについての資料を集め、整理中である。

また、アフリカの狩猟採集民については、ブッシュマン、ピグミー、バンボテ、ドロボー、ハッザおよびドングエなど農耕民における狩猟採集的

要素をとりあげて、生態学的・人類学的比較を進めつつある。

4) ヒトとチンパンジーの行動・生態の比較研究

杉山幸丸

1976-77年に西アフリカ・ギニアの僻地に住み込んで行なった焼畑農耕民と野生チンパンジーの資源利用、道具使用、集団構造、人口密度等の比較研究を整理し、報告した。この成果に基づき、1979-80年には変動の様相を把握、さらに細部にわたる調査のため現地におもむく予定である。

5) サバンナ生息哺乳類の個体群生態

大澤秀行

エチオピアにおけるゲラダヒヒの研究にひき続き、シマウマを中心とした大型・中型の草原性哺乳類の個体群動態・社会生態の比較研究をケニアで行なっている。餌資源の利用法、それにとりまなう個体群のあり方といった観点からこれらの哺乳類の相同的・相似的生活様式の解明をする。

総説

- 1) 田中二郎 (1978) : ブッシュマンの狩猟世界、人類学ノート〈狩猟・漁撈・牧畜〉7。アニマ 64, 81-87。
- 2) 田中二郎 (1978) : 「砂漠の狩人」, 中央公論社。
- 3) 杉山幸丸 (1979) : 人間以前の笑いのコミュニケーション。言語生活 79(1), 27-33。

論文

- 1) Tanaka, J. (1978): A San Vocabulary of the Central Kalahari — G//ana and G/wi Dialects —. *ILCAA African Language and Ethnography VII*.
- 2) Tanaka, J. (1978): A Study of the Comparative Ecology of African Gatherer-Hunters with Special Reference to San (Bushman-speaking People) and Pygmies. *Senri Ethnological Studies*, 1, pp. 189-212.
- 3) 杉山幸丸 (1978) : 「ボツウ村の人とチンパンジー — 西アフリカ僻地の生態」

紀伊国屋書店，東京。 222pp

- 4) 杉山幸丸・西邨顕達・大沢秀行 (1979) : 標識個体追跡による高崎山ニホンザルの幼児消失の性差 — 予報。ニホンザル地域集団における性の役割についての社会生物学的研究 (河合雅雄・東滋編), pp. 52 - 55。
- 5) 小山直樹 (1979) : 交尾期におけるニホンザルメスのグルーミング戦略。ニホンザル地域集団における性の役割についての社会生物学的研究 (河合雅雄・東滋編), pp. 21-26。

学会発表

- 1) Tool Using and Making Behavior of Wild Chimpanzees at Bossou, Guinea. Sugiyama, Y. & Koman, J. Xth International Congress of Anthropological and Ethnological Sciences (1978)
- 2) Field Studies of Non-human Primates in India. Sugiyama, Y. VIIth Congress of the International Primatological Society (1979)
- 3) Population Dynamics of Wild Chimpanzees at Bossou, Guinea. Sugiyama, Y. & Koman, J. VIIth Congress of the International Primatological Society (1979)
- 4) Population Trends of the Hanuman Langur in Dharwar Area (Karnataka, India) Sugiyama, Y. & Parthasarathy, M.D. VIIth Congress of the International Primatological Society (1979)
- 5) Geographic distribution of the rhesus and the bonnet monkeys in West-Central India.

Koyama, N. & Shaker, P.B. VIIth Congress of the International Primatological Society (1979)

- 6) 嵐山におけるニホンザル個体群の変動
小山直樹・乗越皓司
第26回日本生態学会大会 (1979)

生理研究部門

大澤 濟・大島 清
目片文夫・林 基治
三上文江¹⁾

研究概要

- 1) 体温調節反応の比較生理学的研究
大澤 濟・目片文夫
各種サル類の寒冷，暑熱下における体温調節反応を比較し，棲息環境および系統との関係を考察する。
- 2) ニホンザルの寒冷順応に関する研究
大澤 濟・目片文夫・三上文江
人工気象室で5°Cに順応させ，種々の外温に対する体温調節反応，ノルアドレナリン反応性，脂質組成等の変化を調べて生理的順応過程を明らかにする。
- 3) ニホンザルの野生群における寒冷適応の研究
大澤 濟・三上文江
寒冷多雪地域に住む志賀C群の捕獲総合調査を行ない，極限的寒冷環境下における体温調節反応，および寒冷血管反応を調べる。
- 4) ニホンザル繁殖期の季節性を決定する要因に関する研究
大島 清・林 基治
要因のうち，中枢機序がもっとも考えられ，そのうち，光—松果体—視床下部の経路が重要と思われる。現在では松果体性のメラトニンのみでなく，視床下部性の indolamine と光，LH-RHとの関係を考慮に入れねばならない。中枢と性腺活動を電気生理学的，電位的に研究をすすめる。
- 5) 分娩発来及び妊娠維持機序に関する研究
大島 清
妊娠および分娩前後のサル血中 Prostaglandin,

1) 教務職員